令和3年度

# 少年の主張活馬大会

私たちの

熱い思いを

届けます!









主催:埼玉県・埼玉県教育委員会・青少年育成埼玉県民会議・

独立行政法人国立青少年教育振興機構

協賛:Humming Bird未来基金・公益財団法人埼玉YMCA・森乳業株式会社・

埼玉キワニスクラブ・羽石電氣工業株式會社・埼玉りそな銀行・埼玉新聞社



# 大会発表者の皆さん



いまいずみ たく と **今泉 匠翔さん** 

# 小学生の部





佐藤 由梛さん



橋本 唯さん



まなか くくな 間中 玖紅菜さん



アウク ナナ エルシーさん

#### 中学生の部



<sup>おぎしま ゆう た</sup> 荻島 優太さん



<sup>きんじょう</sup> る か 金 城 琉花さん



<sup>なかむら</sup> こう た 中村 岬太さん





<sup>あきえ</sup> 東 き 秋江 真希さん

# 高校生・ 一般の部



古守 未来さん





<sup>すずき</sup> おうじ 鈴木 旺志さん



高橋 瑞希さん

#### はじめに



皆さん、こんにちは。青少年育成埼玉県民会議、埼玉県、埼玉県教育委員会 及び独立行政法人国立青少年教育振興機構の主催で、去る8月22日に40回目とな る「少年の主張埼玉県大会」を開催しました。

昨年に引き続き、今回の大会もコロナ禍での開催となりましたが、29,854点もの応募があり、その中から選ばれた15名の発表者が、自身の経験を通して培った考えを堂々と発表されました。いずれも強い意志や他者への思いやりが伝わる素晴らしい主張ばかりで、大変感銘を受けました。発表者の皆さんにとっても貴重な経験になったと思います。

今回の大会では、差別やLGBTQ+(プラス)などの人権問題、SNSを通じた誹謗中傷、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う生活への影響など、正に私たちが生きる今の社会が抱える課題についての主張が多く展開されました。

私たち大人は、こうした社会の課題に、多くの青少年が影響を受け、心を痛めている状況を改めて認識するとともに、しっかりと向き合い、対応していかなければいけません。

今回の大会に参加された皆さんも、自分の周りや社会の課題について問題意識を持ち、対応を考え、そして、近くの友達や大人に自分の考えを伝えてください。

今後の社会では、多様な価値観を認め、既存の枠組みに捉われることなく柔軟に考え、周りの人に分かりやすく説明する力が求められるでしょう。この大会への参加をきっかけに、そのような力に、是非磨きをかけていってください。

そして、自らの可能性を信じ、他者への思いやりを大切にしながら、夢や希望に向かって果敢に挑戦を続けていってほしいと思います。皆さんの活躍を大いに期待しています。

この冊子は、大会発表者15名の主張を作品集としてまとめたものです。

是非多くの方々にお読みいただき、青少年の夢や希望、熱き思いに共感していただければ幸いです。

結びに、日頃から青少年の健全育成に御尽力いただいている皆様に感謝申し上げますとともに、大会の開催に当たり御協力をいただいた皆様に心からお礼を申し上げます。

令和3年12月

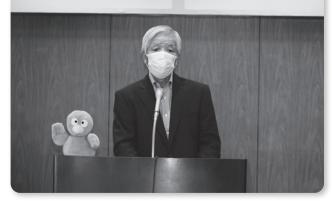
青少年育成埼玉県民会議会長 埼玉県知事 大野 元裕

# 目次

SONO NO RECORDO NO RECORDO		жээжээжээжээж	
<ul><li>はじめに</li><li>大会の模様</li></ul>	(青少年育成埼玉県民会議会長 埼玉県知事 様·····		元裕) 1ページ
/\A\v/\ <del>X</del> \			1 \ /
(小学生の部)			
最優秀賞	・・ 「『人』と『AI』の新たなつながり」		
	三郷市立彦成小学校 6年	おかもと 岡本	希星 3ページ
優秀賞	「もったいないね」	b 1. *	
	三郷市立丹後小学校 5年	なとう佐藤	曲棚 4ページ
優良賞	「地域の宝『浮野の里』の保全」	いまいずみ	*
	加須市立三俣小学校 6年	今泉	たくと 匠翔 5ページ
優良賞	「子の心 親知らず」	はしもと	φι·
	さいたま市立下落合小学校 6年	はしもと	唯 6ページ
優良賞	「『男女平等』わたしのぎ問」	まなか	< < द
	春日部市立正善小学校 5年	間中	<b></b>
(中学生の部)			
	『普通』が人を傷つける」		
以及万只	三郷市立北中学校 1年	アウノ	フナナエルシー … 8ページ
優秀賞	「生活しやすい社会を目指して」		
127772	加須市立加須東中学校 3年	きんじょう	************************************
優良賞	「祖父が教えてくれたこと」		
	行田市立西中学校 1年	<sub>おぎしま</sub> 荻島	<sup>ゅう た</sup> 優太 ······ 10ページ
優良賞	「命の大切さ」	4.4.4.5	- 2 4
	三郷市立前川中学校 3年	中村	岬太 11ページ
優良賞	「命の大切さ」	やまぎし	<i>а</i> . т
	草加市立両新田中学校 3年	かまぎし 山岸	美心 12ページ
(高校生・一般の部)			
	100 1		
最優秀賞	「17歳の私が今伝えたいこと」	すず き	まう じ
優秀賞	埼玉県立草加南高等学校 3年 「今を大切に	亚八	吐芯 13/(-/-/-
後方貝	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	たかはし <b>髙橋</b>	<sup>みずき</sup> 瑞希 ······ 14ページ
優良賞	「これからの学校像	回作	14.
及以只	さいたま市立浦和高等学校3年	あき え 秋江	* * *
優良賞	「誹謗中傷を無くすために」	1/(/	
	埼玉県立草加高等学校 2年	古守	***
優良賞	「将来の夢」		
177	埼玉県立熊谷女子高等学校 1年	さかもと 坂本	らら 17ページ
・特別賞の紹介			
・講評(埼玉新聞社 編集局長 澤田 稔行)			
· 大会の概要······ 21			

# 大会の模様

#### 負会·青少年育成埼玉県民会議·独立



開会の挨拶 (青少年育成埼玉県民会議 前島富雄副会長)



会場の様子



発表の様子(小学生の部)



発表の様子(中学生の部)

# {員会·青少年育成埼玉県民会議·独



発表の様子(高校生・一般の部)



審査の様子



講評(埼玉新聞社 澤田稔行編集局長)

# 令和3年度 少年の主張埼玉県

埼玉県・埼玉県教育委員会・青少年育成埼玉県民会議・独立行政法人国立書少年教



最優秀賞【知事賞】の授与 (青少年育成埼玉県民会議 柿沼トミ子副会長)



優秀賞【教育長賞】の授与 (埼玉県教育局 日吉亨県立学校部長)



優良賞【県民会議会長賞】の授与 (青少年育成埼玉県民会議 中根將行副会長)



記念撮影

#### (小学生の部 最優秀賞)

# 「『人』と『AI』の 新たなつながり」

#### 三郷市立彦成小学校 6年

#### 岡本 希星

「シンチャオ!」

ある日、パソコンの画面に向かってお母さんが 聞きなれない言葉をつぶやいていました。

「何しているの。」「ベトナム語の勉強をしているんだよ。」なぜそんなことをしているんだろうと疑問に思いました。

お母さんは医りょう機関で働いています。そこに来るベトナムの方と会話が出来るようになって、少しでも安心できる場所を作りたかったのだそうです。

「病気になったときや、ケガをしたときの事を思い出してごらん。いつも以上に心細くなるでしょ。 言葉が通じない日本に住んでいるんだから、なお さら不安なはずだよ。」

近年、たくさんの外国の人たちが日本で働いています。その人たちは職場で、同じ国の人同士で情報交かんをしながら生活しているそうです。日本人よりも、同じ国の人の方がたよりにされている事に、さみしさを感じました。

なぜ私たちがたよりにされないのか。それは生活の違いと「言葉のかべ」があるのではないでしょうか。ぼくも家族で過ごすときほど安心することはありません。いつもいっしょにいる友達の家に一人で遊びに行くだけでも、やっぱりきん張します。失礼なことをしてはいけないと気を使ってしまうのです。それは友達の家にも決まりがあり、ぼくの家とはちがう家族で、小さな「社会」だと思っているからです。だから習慣も言葉もちがう外国の人たちは、友達の家で経験している以上の不安や大変さを味わっていると思うと心が痛みました。これではいけないと考えるきっかけになったのです。

しかし、なぜかお母さんは勉強をあまりしなくなりました。ぼくは理由を聞きました。「今はほん 訳機やアプリがあるから、言葉を覚える代わりに それを使おうと思っているんだ。色々な国の言葉を使えるからね。」ぼくは、とても残念でさみしく



練習の成果を発揮でき、最優秀賞が取れうれしかった事、多くの主張も聞け勉強できた事を忘れません。これからも自分の意見をもち学校の発表等で活かしていきたいです。ありがとうございました。

なりました。人とのつながりが機械で行われる世の中になりつつあると感じたからです。このまま便利さを手に入れるための「機械」が中心となってしまい、人と人の温かみを直接感じられる「機会」を失ってもいいのでしょうか。

もやもやした気持ちをかかえていると、お母さんが続きを聞かせてくれました。「外国の人に声をかけられた時、ほん訳機などの「機械」が、会話をする「機会」を作ってくれたの。相手が何を話しているのか分かったら、勉強して覚えた言葉やジェスチャーを使って、言いたいことを伝えているんだよ。」

その話を聞いて、ぼくの心にあった雲が取れ、太陽がさしこんだような明るい気持ちになりました。機械では人の温かみは感じられません。だけど機械は、会話のきっかけを作ってくれ、言葉を知らなくてもより深い話が出来ることにつながるのです。お母さんは笑顔で関わることも心がけているそうです。言葉だけでなく、ジェスチャーや表情で、人への「想い」を届けることを大切にしているお母さんが、とても輝いて見えました。同時に、ぼくもその気持ちを大切にしていきたいと強く強く感じたのです。

ぼくの友達や知り合いにも、多くの外国の人がいます。ですが、残念ながらその国の文化や言葉をよく知りません。他の国を知ることで心の距りが縮まります。かんたんな言葉を覚え、笑顔で交わせるようになれば、もっとお互いに歩み寄れます。これからは、そのきっかけとなってくれるのが機械、「AI」であるかもしれません。人と機械が共存していく世の中に、今とてもわくわくする気持ちを抱いています。

多くの国の人が訪れる日本。だれもが住みやすい日本にするため、たくさんの国の文化や言葉を 学んでいきたいです。機械で深い理解をしながら 会話し、「言葉のかべ」を笑顔で乗りこえたいと思 います。

#### (小学生の部 優秀賞)

#### 「もったいないね」

# 三郷市立丹後小学校 5年 佐藤 由棚

わたしは、八十八才のおばあちゃんと住んでいます。そんなおばあちゃんは、「もったいないね」と言うのが口ぐせです。

ある日おばあちゃんの部屋に行くと、おばあちゃんが短いえん筆をカッターナイフでけずっていました。わたしが、「電動えん筆けずりでけずってこようか。」と聞くと、おばあちゃんは「便利だけど、電動えん筆けずりでけずると余計にけずられてしまって早く短くなってしまうでしょ。もったいないからおばあちゃんは使う分だけけずるんだよ。」と言いました。

おばあちゃんは、「戦争で食べ物がない時代を経験しているから、えん筆でも消しゴムでも紙切れ一枚でも大切に使っているんだよ。」と教えてくれました。今のわたしには、えん筆やノートが簡単に手に入らないということがあまり想像できません。けれど、おばあちゃんたちにとってはえん筆一本だって宝物のように大切だったのだと思いました。

おばあちゃんの部屋を見渡すと、他にも工夫して使っているものがたくさんありました。例えば、広告のうらが白い紙は小さく切ってクリップで止め、メモ帳にしています。箱のティッシュペーパーは半分に切り、半分の大きさにして使っています。目薬を差したときなどに少し使うのにむだにならないように使うためです。ティッシュペーパーの空き箱は、引き出しのしきりに使っています。古くなったシーツは小さく切って、そうじに使います。

もしかしたら、このようなことを言うとケチと か貧ぼうくさいとかいう人もいるかもしれません。 しかしわたしはそうは思いません。おばあちゃん から、欲しくても物が買えなかった戦争中の話を 聞き、物を大事にすることの大切さがよく分かっ たからです。それからわたしは、おばあちゃんの ように物を大切に使うように心がけるようになり



大勢の方の前での発表は少し緊張しましたが、自信をもって発表でき良かったです。私にとって貴重な経験になりました。工夫してものを最後まで使うことを楽しんで続けていきたいと思います。

ました。

わたしはすぐに家のあちらこちらにあった小さくなった消しゴムや短くなったえん筆を集め、まとめて入れておく箱を作りました。短いえん筆は長いキャップをはめて、持ち方に気をつけながら使うようにしています。こうすると家で最後まで使い切ることができます。クッキーの空き箱は、机の引き出しの文ぼう具を整理する仕切りに利用しています。他にも、おばあちゃんのまねをして広告のうら紙でメモ帳を作りました。計算用のノートとして使っています。

今までのわたしをふり返ってみると、ノートやのりなどの文ぼう具を、最後まで使い切ることができなかったことがありました。他にもまだまだ、最後まで大切に使うことができなかったものがあるかもしれません。おばあちゃんの話を聞いた後、わたしは自分のものの使い方をとても反省しました。

今はお店に行けば物がたくさん売っています。 お金をはらえば買うことができます。しかし、本 当に必要なものなのかを考えて買わないとむだに なってしまうことがあると思います。本当に必要 かどうかを考え、自分が何をどれくらい持ってい るかをわかっていればむだな買い物をしなくなり ます。ふだんから整理整とんをしておくことも大 切です。まだ使えそうなものは、工夫して最後ま で使いたいです。今買わなくてはいけないのか、最 後まで使いきれるかなどよく考えてから買うよう にしたいと思います。

小さなことかもしれないけれど、このようなことの積み重ねがごみを減らすことにもつながると思います。一人ひとりの心がけで、未来の美しい地球を守ることができます。ものを最後まで大事に使うことは、とても大切なことだと思いました。

わたしは、おばあちゃんの口ぐせである「もっ たいないね」という言葉が大好きになりました。

#### (小学生の部 優良賞)

# 「地域の宝 『浮野の里』の保全」

# 加須市立三俣小学校6年 今泉 匠翔

「うわっ びっくりした!」。突然聞こえてきた 弟の大声に、僕はドキッとしました。「何、どうし たの?」。急いでかけよっていくと、あまりにもひ どい光景に目を疑いました。道路に散乱したすさ まじい数のゴミと、カラスがつついたのか、穴が 空いたコンビニのビニール袋が二つ三つ捨てられ ているのです。弟は、そのゴミの一つであるビン で転びそうになったらしく、怒りに声が震えてい ました。

今、僕が住んでいる近くに、「浮野の里」があります。この地域は、全国で「水の郷百選」に認定され、さらに、埼玉県として「緑のトラスト保全第一○号地」に指定されています。

「浮野の里」周辺は、ずっと昔からの農村地域で、周辺には雑木林や水辺、クヌギやコナラの並木道があります。そしてその木にはカブトムシやクワガタなどたくさんの昆虫が生息しています。僕の学校三俣小学校も自然豊かなこの環境を学ぶために、学校応援団さんにお世話になりながら、自然観察をさせていただく大切な場所でもあります。ですが、初めてこの辺りでゴミが捨てられているのを見たのは、今から三年位前でした。みんなから愛されているこの場所に、平然とゴミが捨てられることに、僕の心の中には、大きな悲しみと将来への不安が生まれたのです。

例えば、捨てられたゴミによって、通行する人たちがけがをしてしまったり、そこに生息している動物たちがゴミを食べ具合が悪くなったり死んでしまったりと、心配なことが次から次へとあふれ出てきたのです。ですが、この気持ちは決して僕だけではないはずです。

このままではいけない、この環境の悪化を止められないかと考えてみました。そこで思いついたのは監視カメラを設置して、ポイ捨てをする人を取り締まる方法です。捨てている人を見つけて捕



少年の主張で「浮野の里」の こと、また、ぼくの気持ちを伝える チャンスをいただきありがとうござ いました。

自分が住んでいる地域の保 全は、自らが進んで守っていける ようにしたいです。

まえれば、みんなも捕まるのを怖がってポイ捨て をしなくなるはずだと考えました。「これで安心。 環境が守られるはず。」。ところが、何故か僕の心 には疑問が残っていたのです。「自分が大切にして いる場所が取り締まりによって守られる場所で良 いのか」ということです。

そこで、自分から発信することで、環境を守れないかと、もう一度考えようと思いました。そんな時テレビ番組で、コロナ感染症予防について「一人一人の行動がみんなを動かす」という内容を観たのです。「そうだ!」案が浮かび実践してみました。それは、自分が浮野の里へ遊びに行くときに、ゴミ袋を持って行くことでした。そういう日はいつもより少し早い時間に出かけ、カブトムシなどを探す前に、周りのゴミ拾いをするのです。すると、不思議なことにたくさんの昆虫と出会うことができました。中には今まで見たこともないような大きなクワガタまで。まるで昆虫たちがゴミ拾いをした僕に、「ありがとうございます。これからも、浮野の里の自然を大切にしてくださいね。」と、語りかけてくれているように思えました。

僕が一回に拾えるゴミの量はそれほど多くはありません。それでも、ほんの少しずつですが自然が元に戻っていく姿が嬉しくて、ゴミ拾いがだんだんと楽しくなってきています。地域の方々は、ゴミ拾いをしている姿を見て「浮野を守ってくれてありがとう」と言ってくださっています。

僕は信じます。ゴミ拾いをする僕の姿を見て、みんなの意識が変われば、必ずやその行動が変わって、結果としてポイ捨てが減り環境が守られる。それは、今を生きる私たちだけのためではなく、未来を生きるこれからの人たちのために絶対に大切なことなのです。

僕はこれからも、自分ができることを続けて、 「浮野の里」の自然を守っていきます。

#### (小学生の部 優良賞)

# 「子の心 親知らず」

# さいたま市立下落合小学校 6年 橋本 唯

私は今、反抗期まっ際中です。「うるさいな」「分かっているよ」「しつこい」この三大言葉は、私がほぼ毎日言う言葉です。この言葉を発している時の私の気持ちは、イライラしている時です。なぜ、イライラしてしまうのか。それは私の気持ちを母が全く分かってくれないからです。なぜ、親は子供の気持ちが分からないのでしょうか。なぜ、親はすぐに口を出してしまうのでしょうか。そのことで、子供がやる気をなくしていると分からないのでしょうか。親がわかってくれないから、イライラしてしまい反抗してしまうのです。

親が分かってくれないとはどういうことでしょ うか。それは私の考えを親が理解してくれないこ とです。例えば「ゲームしたら勉強する」と私が 言います。親は「勉強してからゲームをしなさい」 と言います。私にはちゃんとした理由があります。 先に勉強すると、ゲームのことが気になり勉強に 集中できなくなります。結果、勉強に時間がかか りゲームができなくなります。それは困るので ゲームを先にした方が、その後集中して勉強に取 り組み気持ちにゆとりがもてます。では、親は理 由がなく勉強が先と言っているのでしょうか。そ れはちがうと思います。親にもきちんとした理由 があって言っているのだと思います。でもお互い にその理由をうまく伝える前に、感情が先に出て しまいぶつかるのだと思います。自分の考えが正 しいと思ってしまい、相手に分かってほしくて、相 手の気持ちを考えることを忘れてしまうのかも知 れません。

私は同時にたくさんのことがこなせる器用な子ではありません。あれもこれもと言われてしまうと、イライラがたまり、反抗してしまいます。自分でも、なんでこんなにイライラしてしまうのかよく分かりません。でも、イライラしないように



2年連続で大会に出場でき、 うれしかったです。本番では足が 震え練習の成果がだせず悔しい 思いをしました。出場した経験を 生かし感謝の気持ちを忘れず、 自分の考えを発信し続けたいと 思います。

するために自分で深呼吸したりして冷静になれる ように努力はしています。

さて、親は本当に子供の気持ちが分からないのでしょうか。私の母は心配症です。私が心配してしまうほど心配症です。そして、いつも私と正面から向き合ってくれています。だから余計母とぶつかってしまうのだと思います。

「親の心子知らず」親が子を思う気持ちが通じに くく、子は勝手気ままにふるまうということわざ があります。子供は親の気持ちを全く分かってい ないかと言われたら、私はちがうと思います。親 が子供のことを大切に思い、心配するあまり口う るさく言っていることに私は気づいています。そ れでも親の言うことを素直に聞き入れる前に、自 分の気持ちや考えを親にだからこそ理解してほし く、それがうまく伝えられずに反抗的な態度や言 葉として表現することしかできないのです。

「子の心親知らず」親が思っている以上に子は成 長し、いろいろ考えているという意味です。私も 私なりに、いろいろと日々考えています。

私たちはこれから先、たくさんのことに悩み傷つき、泣くこともあるかもしれません。それでも、常に親は私のことを心配し寄りそい理解してくれると思います。何よりも大切なことは、おたがいに相手の立場に立って考えるということです。自分の考えが全て正しいわけではなく、色々な考えがあると思います。これから私はたくさんの人と出会います。その時に、あの反抗期があったからこそ、私は自分の気持ちをきちんと伝える大切さ、相手がどう考えてくれているのかを考えられるようになったと胸をはって言える人になりたいです。

反抗期は私にとって成長するための大切な時期です。この反抗期はまだ続きそうなので、お手やわらかに口出しをお願いします。

#### (小学生の部 優良賞)

# 「『男女平等』 わたしのぎ問」

# 春日部市立正善小学校 5年間中 致紅菜

「男子なんだから、女子に負けるな。」 スイミングで競争する時、男子がよく言われます。 そして、わたしの方が勝つと、

「女子に負けてくやしくないのか。」

と言われます。わたしは、「男子は、女子より速くないといけないのかな。男子だって女子だって、一生けん命泳いだ結果には変わりないのに。」と不思議な気持ちになりました。また、ほかの場面で「男のくせに」「女のくせに」という言葉も耳にします。わたしは、「男子だから、女子だからと差別するのはおかしい。」と思っていました。

わたしの母がシングルになった時です。父がいないので当然なのですが、重い荷物を持ったり、夜おそくまで働いたり、むずかしい屋根の雨もりを修理したり、地域の役員会にも参加していました。他の家では、お父さんがしていることを、母はふ通にこなしていました。こんな母を見て、「やらなければならないことは、男性とか女性とか関係ない。」と思い、男女で差をつけることに反対する気持ちが強くなりました。

そんな時、母が再こんし、わたしに新しい父ができました。二人を見ていると、それぞれ得意なことや不得意なことがあって、それをおたがいにおぎないあっていることに気が付きました。母がお腹に赤ちゃんを宿してからは、母には、できないことがふえました。お腹の中の赤ちゃんを守るためにいろいろなことに気を付けながら生活するため、今まで通りの行動ができなくなりました。父は母の体調を見守りながら、母を手伝い、当たり前のように食事の準備やそうじ洗たくをしてくれ



私の主張によって、世界中の 男女差別がなくなり、笑顔があふ れる世の中に変わっていくとうれ しいです。男女関係なく、人として 共に生きる仲間として、やさしく接 していけたらいいと思います。

ます。わたしは、「お母さん役、お父さん役」と仕事を分けるのではなく、「できる人がやればいいんだ。 やるべきことに男女の差はない。男女平等。」と改めて思いました。

しかし、女性である母にしかできないことがあ ります。それは、赤ちゃんをお腹の中で育てるこ とです。生まれてきた赤ちゃんを育てることは、男 性にもできますが、赤ちゃんを産むことはできま せん。「男女平等」とは言っても、できること・で きないことがあり、これは差別とはちがうという ことに気が付きました。では、「男女平等」ってど ういうことでしょう。男性・女性の差をつけない ことですが、おたがいが助け合い、相手を大切に 思うことで、おだやかな気持ちで円満に過ごし、相 手を思いやることで、どちらが上とか下とかもな くなることではないでしょうか。このことは、男 性・女性だけの問題ではなく、人と人との関わり の中で、とても大切なことだと思います。わたし は、「おたがいにそん重し合い、協力し合うことが、 『平等』につながる。」と考えました。

これからの未来は、男女平等は当たり前になっていて、おたがいの特性をそん重し合う社会になっていってほしいと思います。男女関係なく、人として、共に生きる仲間として、思いやりをもって接していくことで、やさしさや温かい気持ちに包まれた世界が広がっていくことでしょう。わたしは、いろいろな人と関わる中で、その人の特性を理解し、そん重し、助け合っていきたいと思います。

#### (中学生の部 最優秀賞)

#### 「『普通』が人を傷つける」

# 三郷市立北中学校 1年 **アウク ナナ エルシー**

私は、ガーナ人の父と日本人の母を持つハーフです。私は人種差別について思うことを伝えたいと思います。

人種差別は昔から今もずっと続いている人権を 傷つける問題の一つです。このような差別は特別 なことではなく、実は私達の意外とすぐ近くで起 きているのです。そして、その多くは、無意識の 内に差別が行われているということを私は強く伝 えたいです。

人種差別と聞いてみなさんは何を思いましたか。 社会科の授業で、アパルトへイトについて習い、それを思い浮かべる人も多いでしょう。しかし、その内のどれほどの人がそれを身近な問題として捉えているでしょうか。おそらく、とても少ないと思います。世界的な問題でもある人種差別は、世界中の人々が自分達も関係があることとして捉え、考えなければいけない問題だと私は思います。

私は、日本人の見た目とは違い肌が黒いです。私 が小さい時には、「なんで肌が黒くて、髪がくるく るなの?みんなと違うんだね。|と言われたことが あります。それまでは自分の見た目や親について 気にしていなかったけれどそう言われてから「自 分はみんなと違うんだ。普通じゃないんだ。」と思 うようになりました。そのことで自分に自信がな くなり、自分が嫌いと感じることもありました。み んなに見られたくないと思う気持ちが強くなりま した。そして、次第にハーフであることがコンプ レックスになったのです。他人が自分をどう見て いるのか、どう思われているのか、その時の私は、 他人の目を通して自分を見ていたのだと思います。 容姿について言われることが、日に日に怖くなっ ていき、相手が、無意識に放った言葉で、人がす ごく傷つくことがあるんだなと感じたことを今で も覚えています。そんな時に思い出したのは、他



この大会を通して、言葉の影響力の大きさを実感しました。ご 指導くださった先生方や応援してくれた友達のおかげで自分に 自信がつき、少し成長できた気がします。ありがとうございました。

人の目から見るのではなく「自分が」どう思うかを考えて生きている私の両親のことでした。私の父はいつも言っています。「肌の色が違うとかお金があるかないかではない。何より大事なのは心なんだ。」と。自分らしく自信を持って生きている私の両親の姿は、すごくカッコいいと思ったし、そこからパワーを貰えました。「こんなことで悩んでいちゃダメだ。自分らしく生きるんだ。」そう思えたのです。

日本は島国で、あまり国際感覚が豊かな国では ありません。自分達とは違うと自分達とその他と いう線引きをしているのではないかと感じてしま うことがたくさんあります。例えば、色鉛筆。こ の中には当たり前のように肌色と呼ばれる色が 入っています。私は、肌の色はこの色じゃないと ダメなんだ、こうあるべきなんだと感じてしまい ました。このようなことは、日本も人種差別と向 き合って変えていくべきだと思います。

人間は生まれた時から自由や平等、そして生きる権利を持っているのです。その人権を無意味に奪われたりしてしまう背景には、肌の色や目の色などだけで本来同じであるはずの人間が線引きされているということがあると思います。ニュースでも黒人差別を受け、命を落としてしまった方を見ました。日本では"普通であること"を皆が無意識に求めていると感じます。その普通という言葉に傷つく人がいるのです。そんな犠牲者をなくし、素晴らしい未来に少しでも近づくためにも、違いを認め合い、心でつながれるといいです。

一日でも早く世界で苦しむ人がいなくなり、平 和でみんなが仲良くなることを願っています。私 もみんなを理解できるように、心を見て心でつな がれる人間関係を築いていきたいです。

#### (中学生の部 優秀賞)

# 「生活しやすい社会を 目指して」

加須市立加須東中学校 3年金城 琉花

聞こえているのに聞き取れない。皆さんはそん な症状に苦しむ人たちを知っていますか。

これは聴覚情報処理障害、通称 APD という障害の大きな特徴です。私は、母が APD だと知ってから、この障害のことを知りました。

APDの症状には二つの特徴があります。一つ目は賑やかな場所での聞き取りが困難なことです。個人差はありますが、雑音など聴取環境が悪い状況下での聞き取りが難しく、何度も聞き返したり、聞き誤ったりしてしまいます。二つ目は、聴力検査では異常が出ないため見過ごされてしまうことです。APDは、賑やかな場所での聞き取りが困難なので、静かな環境で行われる聴力検査では異常がでないのです。

私は母と話しをしている時、聞こえるはずの距離なのに毎回聞き返され、イライラすることがありました。そんなある日、母から APD という障害があり聞き取りが難しいことを打ち明けられました。その時、私はほんの一瞬、自分の母が障害者だと知りショックを受けてしまいました。今まで学校で、障害者への差別をなくそうと標語を作ったりしましたが、いざ自分の母が障害をもっているとわかると戸惑いました。しかし、母からAPD になってとても大変なことや辛いことなどを聞いて、一番理解し、支えなければならないはずの家族である私が、ほんの一瞬でも母を傷つけてしまったことをとても後悔しました。

それからは、母の一番の理解者になろうと APD について調べ始めました。そこで私は APD の悲しい現状を知りました。APD は根本的な治療法がないため、不便なく生活するためには、周囲の協力が不可欠になります。ですが APD の認知度はとても低いため、病院でも診断されない場合があります。また、APD を診察できる病院も現在全国に数ヵ所しかなく、思うように治療ができない人がたくさんいます。

また、母が見つけた APD の人たちが参加している集まりに参加して、APD の人は成人ばかりで



コロナ禍で大会に出場できたこと本当に嬉しく思います。また、優秀賞をいただけて大きく成長することができました。これからも生きやすい社会を目指し自分の考えを発信していきたいです。

なく、私と同じ年代の中高生の人たちも多くいることや、この障害が理解されず、とても辛い思いをし、苦しんでいる人がたくさんいることを知りました。そして、私はそんな人たちのために、何かできることはないだろうか。と強く思うようになりました。

そんな時、参加している集まりで支援活動をしていること知り、参加することにしました。まず行ったのはマーク制作です。APDは、目に見えない障害なので一目でわかるものを作らなければ、と思ったからです。現時点で完成しているのはこちらです。マークにコアラを描いた理由は、動作がゆっくりな動物なので「ゆっくり話してほしい。」ということをわかりやすくするためです。また、耳が大きいので、耳に関するマークであることをわかりやすくする意図もあります。APDの方は、このマークを名刺に印刷したり、ストラップやキーホルダーなど身につけられるものにして活用しています。現在の活動は、マーク制作以外にも悩み相談、最近では ZOOM を使ったオンライン交流会を開いたりしています。

最後に、APDのことを今回知った人たちに伝えたいことがあります。APDの人たちのことを少しでも理解し、もし APDの人と接することがあったら少しだけ気遣ってください。聞こえづらそうであれば、嫌な顔をせず、ゆっくりと繰り返すか、メモに書いて渡してあげてください。

私は、これからも支援活動を続け、今よりも APD の認知度を上げていきたいと思っています。 APD の人たちが、少しでも生活しやすい社会を目指して。



#### (中学生の部 優良賞)

# 「祖父が教えてくれたこと」

#### 行田市立西中学校 1年 **荻島 優太**

ぼくには、大好きな祖父がいました。ぼくは祖 父にとって三番目の孫だったけれど、ぼくが生ま れたことをとても喜んでくれました。赤ちゃんの 時には、ぼくを背負って散歩に連れ出してくれた り、熱を出せば母と一緒に病院へ行ってくれたり したそうです。

祖父とぼくの楽しみは、遠くまで一緒に散歩に 出かけて、二人の好きなタカやワシを探すことで した。ぼくの知らないことを何でも教えてくれる 祖父との日々は、ぼくにとって大切な日々でした。 でも、その当たり前の毎日が、とてもかけがえの ない日々だったことに気がついたのは、祖父が病 に倒れてからでした。

昨年の秋、ぼくはピアノコンクールに向けて練習を重ね、ようやく予選を突破しました。祖父は本選に出場が決まったことを誰よりも喜んでくれたのですが、本選の前日、突然の腹痛で病院に運ばれてしまいました。ぼくは祖父の手術が絶対成功することを祈りつつ本選に臨みました。「リズムよく、生き生きと意志の強さを感じさせる演奏をするんだよ。左手に気をつけてね。」そんな祖父の声が会場の席から聞こえてくるかのようでした。

手術は無事終わり、祖父の闘病生活が始まりました。抗がん剤治療や入退院のくり返しで、祖父が疲れて弱っていくのがぼくにもわかりました。それでも、家族を心配させまいと祖父は明るくふるまっていました。祖母と元気になったら食べたいものの話をしたり、ぼくにピアノや勉強のアドバイスをしてくれたりしました。何よりぼくが学校から「おじいちゃん、ただいま。」と帰ると、「ゆうちゃん、お帰り。」と、目を細めながら迎えてくれるのが、とてもうれしかったです。それなのに、



天国の祖父へ届けるつもりで発表しました。今回の経験を通し、 自分の思いを人に伝えることの 大切さと、他の人の様々な考えを 聴くことの大切さを学び、自分自 身が成長できたように感じました。

ぼくは勉強がわからなかったり、ピアノがうまく 弾けなかったりすると、「じゃあ、おじいちゃんも 弾いてごらんよ。」とか、「急にはできないよ。」な どと言って、祖父に八つ当たりをしてしまうこと がありました。でも、僕がどんなに冷たい態度を とっても、祖父はこれまでとかわらずぼくをかわ いがってくれました。きっと、痛みや不安でつら かったはずなのに。

10月30日のよく晴れた朝、ぼくがかけつけるのを待っていてくれたかのように、祖父は天国へ旅立ちました。祖父の手を握りしめながら、もっといろんなことを教えてもらえばよかった。あんなことを言わなければよかった。そんな後悔が悲しさやさびしさとともに、胸にあふれてきました。ぼくは大切にしてくれた祖父に優しい言葉をかけただろうか、つらい気持ちに気付かず、傷つけてしまってはいなかったか、あれほど大切にしてくれた祖父に恩返しができただろうか、いろんな思いがあふれて、涙が止まりませんでした。

祖父を亡くして気付いたことがあります。それは、どんなときもきちんと思いやりのある言葉で接しなければいけないということです。あんな後悔はもう二度としたくない。家族や友達には、傷つけるような言葉ではなく、相手の立場を思いやる言葉で、自分の気持ちを伝えていかなければならないと思います。

だから、立ち止まって考えよう。自分の言葉が 誰かを傷つけていないか。追いつめていないか。 日々振り返って考える。あの時の後悔をくり返さ ないために。今もどこかで見守ってくれている、祖 父の教えを生かすために。

#### (中学生の部 優良賞)

# 「命の大切さ」

# 三郷市立前川中学校 3年中村 岬太

「自分の命を大切にしなさい」と母からの言葉が 心に突き刺さった。その後母は天国へと旅立った。 最近自殺をしてしまう人のニュースが多い。そ の中でも、インターネットの普及により、脅威を 増した「いじめ」「誹謗中傷」などが、原因となっ ているものが多くなっている。しかし、私は誹謗 中傷をされても死なないでほしい。なぜなら、生 きたくても生きられない人が大勢いるからだ。

私の母は、肺ガンで亡くなった。四十一歳という短い人生だった。「自分の子どもが成人した姿が見てみたい」「孫の顔が見てみたい」とこれから先、健康であれば叶っていたであろう未来を語っていた。それが、ガンという病気のせいで奪われてしまったのだ。そんな母を身近で見てきたからこそ強く願う。病気でもないのに自ら命を粗末にしてしまうのはやめてくれ。しかし、自ら命を絶ってしまう人よりそこまで他人を追いこんでしまう人が一番害悪だ。

皆さんは、「木村花さん」を知っているだろうか。 インターネットの誹謗中傷が原因で亡くなってしまった。インターネット上では、顔が見えないのをいいことに、他人のことを平気で傷つけている人がいる。匿名で誰でも書きこむことは利点もあり、正しく使えば得をすることもある。しかし、一人一人の悪意ある行動によって他人を傷つけたり、死へと追いこんでしまうという側面も持っている。心ない一言によって人一人の人生が終わってしまうこともあるのだ。けれど、そんな人に聞いてもらいたいことがある。

母は、私が小学校二年生の時に肺ガンと診断された。それから五年間の闘病生活を送った。母は、



私は少年の主張大会に出て、 改めて母の分まで生きようと思いました。

そしてこれからの人生楽しんでいきたいです。

元々看護師なので様々な患者を見てきている。そ のため、闘病の苦しみやつらさを分かっていたの だと思う。でも母は病気だということを私達が忘 れてしまうほど元気で、家族に笑顔で接してくれ ていた。そして、母の体がまだ動けるときに色々 な場所へ行った。キャンプや遊園地など沢山の思 い出を作った。父は、季節関係なくキャンプに行 けるように、母の為にキャンピングトレーラーを 買った。しかし、私が小学校六年生の時に母の病 気が悪化してしまった。そして、病院の先生から 余命宣告をされた。「桜が咲く頃には、生きていな いかもしれません。」突然のことに、言葉を失った。 私は帰宅して、その日はずっと泣いていた。次の 日も母は、つらいはずなのに、いつも通り生活し ていた。しかし、突然母の病態は一変し、歩けな くなってしまった。けれど、子どもたちに自分の 弱い姿を見せたくない母は、意地でもトイレには 頑張っていっていた。その母の強い心に私は、「自 分ではとても真似することができない」と思った。 そして、平成三十一年三月二十五日母がこの世か ら去った。何も考えられず、泣くことしかできな かった。「あなたは強く生きなさい |母からの言葉 を思い出し、家族を励まし続けた。葬儀の日にな り、その日は色々な人が集まってくれた。友人、父、 母の職場の方々など多くの人から母は愛されてい たのだと感じた。私は誓った。「母の分も生きなけ ればならない」と。

私の母のように生きたくても生きられない人は 沢山いる。自ら命を絶つなどの行為は、絶対にし てはいけない。誹謗中傷している人は自分がして いる行為を改めて考え直してほしい。

#### (中学生の部 優良賞)

# 「命の大切さ」

# 草加市立両新田中学校 3年 山岸 美心

私は小さい頃から、体力がなく学校も休みがちでした。そのため保健の先生に、一度大きな病院へ行ってみたらと言われ、東京の病院に行くことになりました。その結果、私は再生不良性貧血という病気だと分かりました。この病気は百万人に五人という、珍しい病気でした。その病気を治すには、約四ヵ月間の入院が必要と言われ、それから入院生活が始まりました。

入院生活中では、痛い事ばかりで時には死にた いと思う事がありました。でもその分、辛いとか 悲しい気持ちを理解してくれる人がたくさんいた ので気が楽になり、頑張ろうと思いました。それ からは体調も良くなり自分自身もう退院できるの かと思っていました。でも、赤血球、白血球、血 しょう板が非常に少ないので、骨髄移植をするこ とになりました。しかし移植をするとなると自分 の血液が一致するドナーの方が必要でした。まず は家族で一致するか検査するのですが、なんと姉 と HLA が一致したため移植が出来る事になりま した。しかし姉はまだ十五歳だったので、移植を したくないと言われました。でも私が危険な状態 であったため姉が 「わかった。ドナーになる。」 と 言ってくれました。その時私はまだ小さかったの で、ドナーになってくれた姉の偉大さは分かりま せんでした。そんな姉は本当にすごいなと思いま す。みなさんはもし自分の家族のドナーになって ほしいと言われたら、どうしますか。私には、な れる勇気がないと思います。だから私にとって、姉



今回の大会で、とても緊張しました。でも自分の意見を多くの方に聞いていただき、すごく貴重な経験となりました。この発表が一人でも多くの方の心に届いてたらうれしいです。

は勇気があり本当に尊敬できる人です。なので今 は姉のおかげで、病気が治りみんなと普通に学校 で過したり遊んだりできます。

私以外にたくさんの病気を患っている方が多いと思います。時には嫌になったり、私と同じように死にたくなったり生きている意味が分からなくなってしまう事もあると思います。でも決してあきらめないでください。目標を持って今自分に出来る事を精一杯がんばるといつか必ずいい結果につながると信じています。

今もし「死にたい。」と思っている人がいるのであれば、そんな簡単に言ってはいけません。もちろん辛い事があったからとか色々事情があると思います。でも、あたりまえに過ぎて行く日々を生きたくても生きれなかった人はたくさんいます。

私はこういう経験をして、よかったなと思います。誰よりも分かち合うことが出来るし、この経験をしたからこそ、経験した人にしか分からない共感があるからです。それに人はいつ死ぬか分かりません。もしかしたら明日かもしれない、なので一日一日を大切に生きたいと思います。そして、家族には恥ずかしいので、中々面と向かって言えないけれど、本当に感謝しています。私には自分のために頑張ってくれた家族がいるおかげで、毎日こんなにも元気に過ごせています。今度は、姉を見習って、私が難病で苦しんでいる方々を助けたいと思います。

#### (高校生・一般の部 最優秀賞)

# 「17歳の私が 今伝えたいこと」

#### 埼玉県立草加南高等学校 3年 **鈴木 旺志**

私にとって、この社会は生きにくい社会です。男女を色で分けたり、性別に丸をつけさせられたり、男らしくとか女らしくとか。私のような人間は、どのように生きていけばよいのでしょうか。

私が自分の性に違和感を感じたのは、小学五年生の頃 です。違うクラスの男子に「あいつは女好き。」「あいつ はオカマだからだよ。」などと言われることが多くなっ たからです。ついに、仲が良かった友達からも「おう じってオカマなの。」と悪気のない表情で言われたとき、 私は、咄嗟に「違うよ。」と言いましたが、このときか ら、私は自分の性に違和感を感じるようになりました。 私が自分の性が LGBTQ プラスの中に当てはまると 思ったのは、中学三年生の頃です。社会科の授業で先生 が、LGBTQ プラスという言葉の意味について、説明し てくれたとき、私の性が、クエスチョニングだというこ とを理解しました。しかし、このことを誰にも話すこと はできませんでした。ついでながら、LGBTQ プラスに ついて説明すると、Lは女性同性愛者のレズビアン、G は男性同性愛者のゲイ、Bは両性愛者のバイセクシュア ル、T は性的越境者のトランスジェンダー、Q は自身の 性自認や性的指向が定まっていない状態の人や、敢えて 決めない、クエスチョニングのことです。またプラスに は、あらゆる性別の人が恋愛対象となるパンセクシュア ル、他者に対して性的欲求も恋愛感情も抱かない、アセ クシュアルやエイセクシュアル、他者に対して性的欲求 を抱かないノンセクシュアル、自身の性自認を男性・女 性に定めない、Xジェンダーなどがあり、性は多様に存 在します。しかしながら、社会では、ホモやオカマと いった差別用語を耳にします。このような言葉を口にす る人は、悪気のないように、軽軽しく口にするのです。 また、このような発言はクラスメイトや友人から言われ るだけでなく、先生から言われることもあるのです。

高校二年生の頃、体育の授業で種目決めがありまし た。私は、自分のやりたかったダンスを選びましたが、 ダンスを選択した男子は私以外、誰もいませんでした。 私以外は、みんな女子。私は何とも思っていませんでし た。しかし、先生は「あいつ一人だけ男子で大丈夫なの かな。」と口にしました。私は何も思っていなかったの で、心配してくれているんだと思った、その時、隣の先 生がこんな言葉を口にしました。「あいつは女子と一緒 だから。」この言葉は、私を傷つけました。大人さえも 私の性について理解してくれていないのだということ を実感したからです。多くの人はLGBTQプラスについ て、知っているだけで、理解していないのです。体育の 時間は男子だから「押忍」と辺事をさせられたり、メイ クをすれば、ジロジロ私の方を見てきたり、女友達と遊 びに行けば、「ハーレムじゃん」と言われたりする、こ ういう社会がとても生きにくいものなのです。



コロナ禍で開催して下さった 関係者の方に感謝致します。私 の主張が、誰かのことを救い、誰 かの考えを変えられればうれしい です。最後に、このようなすばらし い賞を頂きありがとうございました。

私はクエスチョニングだということを親友に話しました。親友から返ってきた言葉は一つです。「おうじはおうじだから。」親友の言葉は、私を救ってくれたと思います。今まで、誰も私の性について理解してくれなかったのに、彼女だけは、その一言で私を救ってくれました。それから、私は相談しやすい先生に、クエスチョニングであることについて英語でスピーチをしたいと伝え、スピーチをしました。そのスピーチで私は、先生やクラスメイトにカミングアウトをしたのです。たくさんの人が私に、「感動した。」「今までよく頑張ったね。」と言ってくれました。私のカミングアウトは無駄ではなかったのです。しかし、世の中には、カミングアウトをして、いじめられる人がいるのが現実です。彼らは、男・女に当てはまらない人を毛嫌いし、いじめ、LGBTQプラスの当事者を追い込むのです。

また、LGBTQプラスの問題として挙げられるのは結婚についてです。この国の法律では、同性同士が結婚することは、認められていません。なぜでしょうか。この国の国会議員は、「生産性がないから」と言いましたが、愛に生産性は必要でしょうか。確かに同性婚に生産性はありません。しかし、同性愛者が結婚できないことと関係はないと私は思います。渋谷区が先陣を切って、定めた「パートナーシップ」のように何かできることがあるはずです。社会は、「できない」と言って私たち、LGBTQプラスから目を背けているだけなのです。

私には今、好きな人がいます。相手は男性です。男性が男性を好きになることが、そんなに不思議でしょうか。今この中に、LGBTQプラスの当事者の人がいて、誰にも言えずにいるのなら、言わなくてもいいと私は思います。もし誰かにカミングアウトをして、自分がLGBTQプラスであることをSNSなどで拡散されたら、その人がやったことは、アウティングというもので立派な犯罪行為です。私たち、LGBTQプラスの当事者が悪いことなんて、一つもないのです。男らしくとか女らしくとかいう概念は、もう捨てましょう。自分らしく生きていい時代だと私は思います。

最後に私から、みなさんにお願いがあります。LGBTQプラスについて知っているだけでなく理解してください。あなたの発言がLGBTQプラスの人たちを傷つけてしまうことを知っておいて下さい。この国のLGBTQプラスについての教育は不十分であると思います。教育者のみなさん力を貸して下さい。教育の力は偉大です。教育で社会は変えられます。だからこそみなさんの力が必要です。この国でLGBTQプラスが当たり前になる日が来ると私は願っています。十月十一日は、国際カミングアウト・デーです。いろんな性のあり方を認め合い、誰もがオープンにできる世界を語り合いましょう。

#### 高校生・一般の部 優秀賞

# 「今を大切に」

## 埼玉県立鴻巣女子高等学校 1年 **髙橋 瑞希**

一生忘れはしない2011年3月11日、14時46分。 この数字は私の心に刻まれていて、やけどの傷の ように忘れたくても忘れられない東日本大震災 が起きた日。

当時私は宮城県、仙台市に住む保育園年中の5 歳児でした。このままいつもの時間が過ぎると 思っていたお昼寝の最中、突然の大きな地鳴りと アラーム音。物はたおれ、何かに掴まらなきゃ立 てなくなり震度は7へとのぼりつめました。今で も緊急地震速報のアラーム音を聞くと震えがで ます。母は仕事中でしたが急いで私を迎えに来て くれ、家の前にある小学校へ避難しました。小学 校に着くまでに私が見た光景は、信号は止まり、 割れた道路、燃える民家などでした。実際に自分 の家も傾いていて、ここは私の知らない町だ、と 願っていました。ですが、小学校の中で避難生活 を続ける中、泣いている人や、「もうだめだ」と 嘆いている人を見て"あぁ夢じゃないんだ"と思 わされました。避難生活は安心できる場所です が、1日1個のおにぎりが食事と過酷な日々が続 いていました。私は2日後に父の実家である埼玉 に避難することができましたが、他の人はそう じゃなかったかもしれません。埼玉に着いて私が 気づいたことは、1日で家があった町と友達をな くしたことでした。

地震に伴ってやってくる災害として津波があります。私の家にはきませんでしたが、他の地域には津波がきて逃げ遅れて亡くなった方もいます。その中に母の友人も含まれています。水が迫るというのは、とてもあっという間です。今でも行方不明者がいるほど強い力を持っているのです。長い時間をかけ作りあげてきたものが一瞬で壊れるほどの力です。壊されたものの中に、もちろん家や物もありますが、笑顔や命もあったことを私は忘れません。大切な人がいなくなるのは、いつか分かりません。今を大事にしてください。

それは、現在起こっている新型コロナウイルスに関しても同じです。亡くなった人も決して少なくありません。新型コロナウイルスの場合、感染



本大会に出席させていただいた事、とても嬉しく思います。これから先どうなるか分からない災害問題や命の尊さについて自分の作文を通して皆さんに伝わればいいなと思っています。

防止のため誰にも会えずに死んでしまいます。この状況をしっかり理解し、行動を改めてほしいと思っています。

もし今すべてから逃げ出して自殺しようと、生きるのをやめようとしている人達へ言いたいことがあります。あなたが死にたかった今日は、誰かが生きたかった今日です。気持ちが追い込まれた時、この言葉を思い出してみてください。誰かが生きたくても生きられない、生きたいと思っている人がいると思います。

これに対して、そんな簡単に命を捨てるのはおかしいと思いませんか。きっと心の奥に閉じ込められてしまった、まだ笑っていたいという気持ちを見つけてみてください。他人が作ることのできない、自分だけの人生を最後まで飾り続けた方がいいのではないでしょうか。

自然災害という大きな壁に当たると、私達は、 それまでの日常が、かけがえのないものだったと 考えてしまうことがあります。社会、世界にかけ ているもの、被災地を通して絆を深める事や食事 や寝所があることが、どんなに幸せか教えてくれ るからです。私も東日本大震災を通して、あたり 前の日々がとっても幸せだったことを教えてく れました。いつの間にか私は平和が続くことを勝 手に決めつけていました。ですが、そうではあり ません。自然災害の他にも殺人事件やテロなどが あります。大きな壁に大きな壁がくっつき、ひと つの壁になった前に私達がいます。この壁はかけ がえのないものを教えてくれますが、私達にとっ て大切なものを奪っていきます。私は、この壁は 平和への道になると考えました。形が変えられる ことはあるけど消えることはないからです。

東日本大震災を通して私は命や平和について よく考えるようになりました。私のように人生が 一変することも、これから先あるかもしれませ ん。被害を絶対に止めるなんてことはできないか もしれません。ですが、最小限に抑える手伝いを していこうと、私は決意しました。

#### 高校生・一般の部 優良賞

#### 「これからの学校像」

# さいたま市立浦和高等学校 3年 **秋江 真希**

今、私たちは「with コロナの時代」と呼ばれる 時代のはじまりに直面している。こんな異例の時 代に人生でたった一度きりの高校生活をおくる私 たち十七歳にしか書けないテーマ「コロナと学校 生活」について考えていこうと思う。

私は今までの日常で世の中のことに特に関心を 持っているわけではなかった。そんな私でさえ、休 校期間は毎日が同じ日々の繰り返しで、色々なこ とを考えずにはいられなかった。世の中では今、コ ロナウイルスとの共存という言葉をよく聞くよう になった。そんな中私が今感じ考えることは主に 二つある。

一つ目は、「部活 with コロナ」についてだ。コ ロナが蔓延し始めてから国内では三ヶ月以上の自 粛生活が続いた。それと同時に私たち中高生は今 まで全力を注いできた部活動を全くできない日々 を過ごした。そんなとき世の中で言われていたの は「不要不急の行動は避けましょう。」私は「部活 は不要不急なの?」と思わずにはいられなかった。 今までの努力が大切ではないと言われているよう で、とても辛かった。「部活は今でなくてもでき る」と言う人もいるだろうし、大人が私たちを守 るために部活禁止の措置をとってくれている、と いうことも頭ではしっかり分かっていた。それで も私は、心では「先輩とできる部活は今しかない から部活がやりたい」と思っていた。学校が再開 し、自粛が少しずつ解けてきてもまだ部活の規制 は厳しく、去年と比較するとほとんど部活ができ ていない。テレビなどでは専門家が「これからは with コロナの時代 | と話しているのをよく聞く。 つまり、私たちが部活をしているうちには、きっ とコロナはなくならないのだろう。私たちはこの ままよく分からない流れで引退することになるか もしれない。それはもう仕方のないことだと思う。 しかしここで疑問に思うのは、「本当に全員が規制 に従っているのか」、「本当に平等なのか」という ことだ。そこでインターネットを使って調べてみ ると、緊急事態宣言中にも部活動をやっていたと ころもあると知った。自分の目で実際に見たわけ ではないのでどこまで本当かは分からない。しか しその記事はとても衝撃的だった。私が「部活 with コロナ」を通して伝えたいことは、規制をす るなら何部であろうと、どこの学校であっても、強 豪校であろうとそんなことは関係なく規制をし、 それを守らせる仕組みが必要なのではないかとい うことだ。そうでなければ、今までの努力も、休 校中の我慢や苦しみも何一つ報われないと思う。

二つ目は、「学校行事 with コロナ」についてだ。 今年学校行事を全て例年通りに実施できる学校は



この大会を通して自分の考え・思いを人に伝える難しさを感じました。今辛い思いをしている中高生が、私の主張をきいた時「私も頑張ろう」と一人でも感じてくれたら嬉しいです。

ないだろう。休校期間中に感じたのは、勉強は家 でもできるけど、いろんな友達との思い出を作れ るのは、学校にしかない魅力だということだ。自 宅学習でも、オンライン授業でもなく、学校でし か得られないもの、学校へ通う目的のひとつを 失ってしまっていいのか。この時代、毎日学校に 通えるだけで幸せなことなのかもしれない。それ でもたった一度の高校生活。過ぎてしまったらこ の時間は戻ってはこない。みんなとたくさん思い 出を作れる学校行事をどんな形であれ実施してほ しいし、実施するべきだと思う。それと同時に、今 学校行事ができる事自体が奇跡で、たくさんの人 の努力の上に成り立っていることを理解し、感謝 しなければならない。私の通う市立浦和高校では、 規模や行き先などの変更はあったものの、体育祭、 遠足が実施された。修学旅行も、シンガポールへ 行く予定が長崎になったが実施される予定だ。普 通に考えてしまえば、「文化祭をやりたかった」「シ ンガポールに行きたかった」と思うのは当たり前 だ。しかし私は周りで、こういう言葉がネガティ ブなニュアンスで発せられるのを聞いたことがほ とんどない。むしろ、「自分達にはまだ来年があ る」とか「いければ絶対どこでも楽しいよ」とい う前向きな言葉をよく聞く。自分の状況を悲観せ ず、置かれた状況下で、人を思いやったり、最大 限楽しもうとする友達が周りにたくさんいる。そ れだけでなく、先生方を始め、私たちに関わって 努力をして下さっている人が大勢いる。だから私 は毎日を楽しく過ごせるのだ。

本当にたくさんの数えきれない悲しみ、苦しみをもたらしたコロナウイルスだけど、コロナに感謝できる唯一のことは当たり前のありがたさを感じられたこと、毎日を大切にしようと思えたこと、小さな喜びをたくさん見つけられたことだと思う。このことは私たちが決して忘れてはいけないことだ。そしてこれらのことは私たち高校生だけの話ではない。全ての人が自分にできることを努力し協力することで小さな喜びを作り出し、その喜びをどんどん周りに広げていく。そうすれば、全が広がる世界はウイルスではなく、小さなたくさんの幸せが広がる世界になるのではないか。

その後、二度目の緊急事態宣言が発令されたことでシンガポールの代替案だった長崎修学旅行は中止を余儀なくされた。発令直前に修学旅行を楽しむ他校の友人の姿をやりきれない思いで見た。今を生きる私たちは、日々不平等感にさいなまれることも多い。しかしそのことに腐らず、いつか来る明るい未来のために努力し続けていこうと思う。

#### (高校生・一般の部 優良賞)

# 「誹謗中傷を 無くすために」

#### 埼玉県立草加高等学校 2年 **古守 未来**

最近、SNSでの誹謗中傷やそれによるトラブルをよく耳にします。私自身、ユーチューブをよく見るのですが、コメント欄を見ると動画の内容と全く関係の無い暴言や、憶測と決めつけでしかないような発言を多く目にします。社会で問題視されていても減ることのない誹謗中傷は、どうすれば無くすことができるのでしょうか。

誹謗中傷は根拠のない悪口で他人を傷つける行為ですが、ネット上でのいじめや物理的、心理的な攻撃のことをネットリンチと言います。そんなネットリンチの被害に遭ってしまった、ジャスティン・サッコという女性がいます。彼女は有名人でも何でもない、ツイッターのフォロワーが百七十人程度の平凡なアメリカ人女性でした。

彼女がアフリカへ一人旅に出るとき、飛行機が 離陸する直前にこんなツイートをしました。「アフ リカに向かう。エイズにならないことを願う。冗 談です。言ってみただけ。なるわけない。私白人 だから。」もちろんエイズの感染に人種の違いなど 関係ありません。深く考えず、冗談のつもりでつ ぶやいたこの無責任な言葉が彼女の人生を激変さ せてしまうのです。彼女が気がついた頃には彼女 の名前はツイッターのトレンドで一位になってお り、世界中の人々からのメッセージが彼女のもと に届いていました。そして恐ろしいことに彼女の 居場所をリアルタイムで確認できるサイトが、イ ンターネット上に貼られていたのです。そしてつ いに、「誰かケープタウンにいる人、空港に行って 彼女が飛行機からでてくるところを実況できませ んかね。」というコメントまで書き込まれてしま い、なんとそれに応じる男もいたのです。彼女は 怖くなり、すぐに問題のツイートを削除しました が、もう手遅れでした。会社は辞めざるを得なく なり、顔も名前もネットに晒され安心して社会生 活を送ることも困難になってしまいました。どん なに隠そうとしてもグーグルで名前を検索すれば、 すぐに分かってしまいます。もちろん彼女は人を 傷つけるようなことをツイートしてしまいました。 しかし彼女のツイートは人種差別を意図したもの



元々、大勢の人前に立つことがすごく苦手だったのですが、練習を重ね、先生方のお陰で堂々と主張をすることができました。 自分に自信がつき、とても良い経験になりました。

ではなく、人種差別主義者の言いそうなことを真 似して揶揄したものだったのです。それでも無責 任だったことに変わりはないし、彼女の発言に本 当に傷ついた人もたくさんいます。けれども、彼 女を攻撃している大半の人には彼女の意図などは 関係無く、ただ共通の敵を見つけて叩きたいだけ なのだと私は思います。自分勝手な正義感で人を けなし、自分を正当化しているだけなのではない でしょうか。この件に関わらず、最近は些細なこ とでもこれでもかというほど炎上し、人格を否定 されるようなことまで言われてしまいます。私の 好きなインフルエンサーが災上してしまったとき も、関係の無い容姿を批判されたり、私達に分か るはずのない彼女の人格まで批判されてしまって いました。炎上している人には何を言っても良い ような風潮を私は危惧します。本当にひどいこと をしているのはどちらなのでしょうか。また批判 している人の中には、その人に関する知識が充分 に無いのに、流れに便乗しているだけの人も大勢 います。批判する方は優越感に浸るためや、暇潰 し程度の軽い気持ちだと思います。でも叩かれた 方は心に一生の傷を負ってしまうこともあります。 言葉はうまく使えば人を求うこともできます。し かし、一歩使い方を間違えれば人を殺すこともで きてしまいます。

誰かが必死で訴えかけても人が亡くなってしまっても何も変わらないこの状況を私はおかしいと思います。匿名による罪の意識の無さや言葉の責任感の無さが誹謗中傷がなくならない原因の一つなのではないでしょうか。対面で話すときにネットの誹謗中傷のような言葉を直接的に言う人はあまりいないと思います。匿名である以上、誹謗中傷をなくすことは本当に難しいと思います。だから、匿名で発言できないような制度を作るか、一人一人が匿名であっても人対人だということを忘れず、発信する側も受信する側も対面で話すときと同じように、いや、それ以上の責任を持つべきだと思います。

#### 高校生・一般の部 優良賞

# 「将来の夢」

# 埼玉県立熊谷女子高等学校 1年 **坂本 らら**

私の将来の夢は看護師です。そのように思った のは、ドラマや本の影響もありますが一番は母だ と思います。

私の母は看護師です。今は外来に通って来る患 者さんの看護をしています。私は小学生のとき、 学校でけがをして母の勤めている病院へかかっ たことがあります。待合室で待っている間、母や ほかの看護師さんたちが働いている姿を見てい ました。耳の遠い患者さんに膝をつき、目線を合 わせ、患者さんが聞き取れるようゆっくり話しか けていました。その後患者さんは笑顔で帰ってい きました。また、救急外来からストレッチャーに 乗った患者さんに声をかけながら、テキパキと動 いている看護師さんもいました。看護師さん同 士、すれ違いながら「お疲れ様。」と励まし合っ ている姿も見ました。それらを見て、相手の立場 に立ち行動でき、仲間を気遣い合いながら働く看 護師は、頼もしい存在で素敵な職業だと感じまし た。

しかし、私にはずっと忘れられない看護師の母 の姿があります。

私の祖母は、私が小学生のときに亡くなりました。亡くなる一週間前に祖母は家に帰ってきて、私も一緒に過ごしました。帰ってきた祖母は寝たきりで、少し小さくなったみたいでした。「病院から退院する = 元気になった」と思っていた私は、元気からは遠い姿を見て少し変だなと思いました。

母は祖父と一緒に、二時間おきに祖母の体の向きを変えてあげたり、体をふいてあげたり、髪を洗ってあげたりしていました。そういうとき、母は「熱くない。気持ちいいかな。」「ほんとはお風呂入りたいよね。」など、声をかけていました。祖母は眠っているので、返事は帰ってきません。しかし、私には母は祖母のことが何でも分かっているように見えました。また、体が不自由な人でも寝たきりの人でも快適に過ごせるよう助けられるというのは、とてもすごいと思いました。母にそのことを伝えると、母は「看護師ならみんなできるよ。」と言っていました。また、祖母の役に



発表はとても緊張しましたが、 看護師になりたいという思いを 伝えることができ、嬉しく思います。 他の方の発表も聞き、色々な価 値観にふれられ、大変良い経験 でした。ありがとうございました。

立ってよかったとも言っていました。

ほとんどベッドで眠っていた祖母でも起きている時間がありました。いつも朝の四時頃に起きていて、母は祖母の話し相手をしたり、祖母が食べたいものを食べさせてあげたりしていました。私が学校に行く時間はまだ起きていて、「いってらっしゃい。気を付けてね。」と笑顔で言ってくれました。しかし、だんだん目を覚ましている時間が減っていきました。そして、家に帰ってきて四日目の朝から祖母は眠ったままになりました。往診に来てくれていた先生からも、「かなり状態が厳しい。」と言われ、家族中で話し合っていました。そして、七日目の夜に祖母は本当に眠るように亡くなりました。

私は祖母のことで、患者さんをケアすること や、お医者さんのサポートだけが看護師の仕事で はないことを知りました。

私はなぜ祖母が家に帰ってきたのか、知りませんでした。しかし、祖母が亡くなった後、祖母の望みで帰ってきたということを知りました。母は病院で長く生きるより、家族との時間を選んだ祖母の願いを叶えるために、家族を説得したそうです。あちろん、家族からは反対の意見も出たそうです。病院で治療を受けた方が家で治療を受けた方が家で治療をできるより長く生きられるのだから、当たり前のことと思います。しかし、最後は、家族を納得とと思います。しかし、祖母の意思や意見を第一に考え、手伝い、支えていました。祖母の立場に立ち家族を説得したり、祖母の願いを叶えた母はとてもすごいと思ったし、かっこよかったです。

看護師という仕事は患者さんの体をケアし、お 医者さんをサポートするだけではなく、患者さん がどう生きたいか、患者さんの意思や意見を尊重 し、それらを守るために手助けをしていく仕事な のだと思います。

私も将来、患者さんの体だけでなく意思や意見 を尊重し、支え、守ることのできる看護師になり たいです。

# 特別賞の紹介



「Humming Bird未来基金」特別賞 草加市立両新田中学校 3年 山岸 美心さん

幼少期に再生不良性貧血を発症、骨髄移植の必要を迫られることに…。15歳の姉が骨髄移植という恐怖感を乗り越えて移植を申し出て、無事移植手術を受け…。

今は健康に溌剌とした表情で、この経過を姉への心からの感謝を込めて、命の大切さを多くの人々に伝えていきたい、と力強く思いいっぱいに話してくれました。

「お姉さんは来られているの?」と訊いたら、「いいえ、 来られませんでした」と残念そうな表情を浮かべていまし た。「この場に誰より一緒にいたかった、いてほしかった」 のではと感じました。



「ポジティブネット YMCA」特別賞 三郷市立前川中学校 3年 中村 岬太さん

SNS等での誹謗中傷が原因で自殺する若い人が多くなっている一方、生きたくても生きることができない多くの人々がいる。そんな状況のなか、中村岬太さんの「命の大切さ」と題する主張から、命の大切さへの強いメッセージを受けることができました。YMCAの「互いを認め合い、高めあうポジティブネット」と「みつかる・つながる・よくなっていく」スローガンに合致したことにより選出いたしました。

次世代を担う青少年が、自身の思いを地域や社会に発信し、行動していくことをYMCAは支え続けていきます。

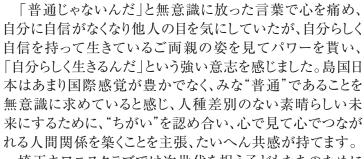


「WATABOKU」特別賞 三郷市立丹後小学校 5年 佐藤 由棚さん

「もったいないね」は無駄の多い世の中をテーマとした素晴らしい内容で、お祖母様とのエピソードの説明も臨場感に溢れた心温まる発表でした。弊社は学校給食牛乳はじめ多くの飲料を製造する食品企業です。予てよりフードロスとも呼ばれる食品の無駄について様々な議論をしていますが、佐藤さんの発表は正に食品にも当てはまる問題と改めて感じました。また、「未来の美しい地球を守るために」と締めくくられたこともとても共感いたしました。そしてお祖母様をこよなく愛する佐藤さんの優しさも大いに伝わって参りました。この度は受賞おめでとうございます。



「埼玉キワニスクラブ」特別賞 三郷市立北中学校 1年 アウク ナナ エルシーさん



埼玉キワニスクラブでは次世代を担う子どもたちのために 社会奉仕活動を行っています。アウクさんの今回の発表に 賛辞を贈り、ますます自分らしく健やかなご成長を心よりお祈 りいたします。



「輝け・明るく・裕(ゆたか)に」特別賞 埼玉県立鴻巣女子高等学校 1年 髙橋 瑞希さん

「今を大切に」、自分や家族、身近な友人に起きた様々な出来事を継承し、自然災害による経験や平和への思いを多くの人々に語り伝えていく意識を強く感じました。

命の大切さを訴え幸せな平和的日常を維持していくこと を願った主張発表に率直な思いと決意がつづられており 心うたれました。

夢や未来の姿に向かい、実現に向けた自身と決意のある作品が希望のキーワード「輝け・明るく・裕(ゆたか)」となるように特別賞を贈りました。



「Next Action 埼玉りそな銀行」特別賞加須市立加須東中学校 3年金城 琉花さん

身近に起こった事例を受け止め、家族として理解するだけでなく、周囲の人たちにも理解してもらうべく行動を起こす姿勢に感銘致しました。「Next Action」を心掛ける弊社も共感し、選出させていただきました。

APD (聴覚情報処理障害) に限らず、十分に認知されていない障害はいまだ残っていますが、相互理解に向けた取組みを継続していくことで全員が住み良い社会の実現ができるはずです。弊社も引き続き地域に根差した金融機関として各種活動に従事して参ります。今後も金城さんの更なるActionと、一層の活躍を期待しています。



「埼玉新聞社」特別賞 埼玉県立草加高等学校 2年 古守 未来さん

SNSで他人を誹謗中傷する今日的な社会問題に切り込んだ、古守さんの主張は「匿名による言葉の暴力は許さない」という明確な意思が伝わる内容でした。「言葉をうまく使えば人を救うこともできるが、使い方を間違えば人を殺すこともできる」「匿名でも発言に責任を持つべき」という訴えは強いメッセージ性があり、心に響きました。社会のデジタル化が進む中、古守さんのような若い世代が、この問題に真正面から向き合ってくれることを願います。

#### 埼玉新聞社編集局長 **澤田 稔行**



15人の発表者の皆さん、本日はお疲れ様でした。また各賞の受賞、誠におめでとうございます。

今年は3部門で29,854点の応募があったと聞きました。本日発表された皆さんは、その中から選ばれた15人です。どの主張も心に響く内容でした。特に今回は各部門で命の大切さを伝える内容が多かったと思います。また、人種差別やLGBTQプラス(性的少数者)、SNSなどを通した誹謗中傷といった国際レベルで語られる社会問題が皆さんの日常にもあり、今回、そのような問題をテーマとした主張が数多く発表され、聴いていてとても印象に残る大会でした。

審査は、発表内容と表現力・発表の態度の2点の合計得点で最優秀賞等を決めました。皆さんの一生懸命伝えようという姿勢が伝わってきて、どれも甲乙つけがたい内容でした。新型コロナウイルスの影響で社会が停滞する中、皆さんの実直な感性と堂々とした発表態度に、私自身も勇気づけられました。ありがとうございます。

まず小学生の部は、普通の生活・日常の生活から得た気づきを訴える発表が多かった印象です。人とAIのつながりの重要性を訴えた主張は、新しい時代の到来を告げる内容だったと思います。また、地域の自然に捨てられたごみを解消するためにまず自分から行動しようという主張は、我々大人たちも学ぶべき行動だと思います。ごみ問題に関する訴えもあり、ごみを出さないためにも、発表にあった「もったいない精神」が全国に広がってほしいと改めて感じました。

中学生の部は、自身の入院経験や家族の死を通して命の大切さを伝えてくれる内容をたくさん聴く事ができました。障害を持つ母親への思いを切実に伝えた主張は心に響きました。APD (聴覚情報処理障害)がこれからどんどん社会に認識され、広がっていってほしいと願います。また、「普通」が人を傷つけるという差別に関する問題提起をしてくれた主張は、これからの国際社会や共生社会の実現に向けて大勢の人に聞いてもらいたい内容でした。「外見や文化の違いを認め合い、心でつながる」社会の実現に向けて、私たちは意識改革が必要と実感しました。

続いて高校生・一般の部は、社会的なテーマを問題とする内容が多く、強いメッセージ性がありました。With コロナ時代の学校生活や東日本大震災を通して実感する「あたりまえ」の日々の有り難さについては、私も痛感しています。また、看護師の母親の姿を通して将来の夢を語る発表のほか、SNSを通じた誹謗中傷問題やLGBTQプラスに対する認識不足を訴える主張には、とても考えさせられました。性的少数者に対する理解はまだまだ浸透していません。近年、同性愛者の婚姻を認めるパートナーシップ制度を導入する自治体が増えてきました。しかし、一般市民への理解はまだ十分浸透しておらず、これからだと思います。こういう場で、当事者が堂々と出てきて、自分の思いを伝える、そういう人材が出てきたということも、社会の大きな変革の一つだと思います。自分らしく生きていく時代に向けて、社会がそう変わっていくことを信じています。

今年のNHK大河ドラマは、埼玉の偉人・渋沢栄一翁が主人公です。渋沢翁は、道徳と経済を両立させ、多様性を重んじ、新たな選択肢を生み出していくことの重要性を説き、激動の明治期に日本近代経済の基礎を築き上げました。一方で、福祉事業も複数興しています。渋沢翁がその中で土台としたものは「忠恕の心」、つまり真心、思いやりだったそうです。共生社会の実現も、多様性を尊重する社会も、忠恕の心、真心、思いやりが大切となります。今回の皆さんの主張は、一人一人テーマは違っていましたが、家族に対する思いやり、他者に対する思いやりがとても伝わる主張だったと思います。

結びに、このコロナ禍で開催のために尽力してくれたスタッフの方々に、まず感謝申し上げたいと思います。また、本日発表した児童生徒さんのために、この制限された状況の中でも駆け付けて主張を聞いてくれた保護者・関係者の皆様、さらに、日々の青少年健全育成活動に尽力されている方々、企業関係者の皆さまに敬意を表しますとともに、次代を担う若者たちの明るい未来を祈念し、講評を終わらせていただきます。

# 令和3年度少年の主張埼玉県大会の概要

#### 1 主催

埼玉県·埼玉県教育委員会·青少年育成埼玉県民会議· 独立行政法人国立青少年教育振興機構

#### 2 協賛

Humming Bird未来基金·公益財団法人埼玉YMCA·森乳業株式会社・ 埼玉キワニスクラブ·羽石電氣工業株式會社・埼玉りそな銀行・埼玉新聞社

#### 3 後援(順不同)

埼玉県市長会·埼玉県町村会·埼玉県市町村教育委員会連合会·

埼玉県公立小学校校長会・埼玉県中学校長会・

(一社)埼玉県私立中学高等学校協会·埼玉県高等学校長協会·

埼玉県特別支援学校長会·埼玉県PTA連合会·

埼玉県高等学校PTA連合会·埼玉県特別支援学校PTA連合会·

埼玉県私立小学校中学校高等学校保護者会連合会・読売新聞さいたま支局・

NHKさいたま放送局・テレビ埼玉・FM NACK 5

#### 4 応募作文数

小学生の部16,799点中学生の部10,629点高校生・一般の部2,426点計29,854点

#### 5 大会の概要

(日時) 令和3年8月22日(日) 午後1時00分~4時45分

(場所) さいたま共済会館 大ホール

#### (進行)

- ·開会
- ·挨拶(青少年育成埼玉県民会議副会長 前島 富雄)
- ·審查員紹介
- · 主張発表
- ·審查結果発表
- ·講評(埼玉新聞社編集局長 澤田 稔行)
- ·表彰
- ·閉会

#### 6 審査員(敬称略、順不同)

#### (1)第一次審查員

小学生の部・中学生の部 (令和3年7月7日(水)審査実施)

埼玉県退職校長会 荻田 哲男 小島 健司 埼玉県退職校長会 埼玉県退職校長会 羽島 降夫 埼玉県退職校長会 真嶋 廣久

高校生・一般の部 (令和3年7月6日(火)審査実施) 埼玉県高等学校等退職校長会 伊古田 陽子

小林 一郎 埼玉県高等学校等退職校長会

#### (2)第二次審査員

赤城乳業(株)

村越 新 埼玉県公立小学校校長会 幹事長

岡田 英行 埼玉県中学校長会 副会長

吉岡 靖久 埼玉県高等学校長協会 副会長

深野 友也 埼玉県PTA連合会 副会長

繁田 剛 埼玉県高等学校PTA連合会 会長 前島 富雄 青少年育成埼玉県民会議 副会長 柿沼 トミ子 青少年育成埼玉県民会議 副会長 青少年育成埼玉県民会議 副会長 中根 將行

澤田 稔行 (株)埼玉新聞社 編集局長 日吉 亨 埼玉県教育局県立学校部長

岩崎 寿美子 埼玉県県民生活部県民共生局長

#### 令和3年度 賛助会員の皆様

青少年育成埼玉県民会議は、次代を担う青少年の健全育成のために以下の企業・団体に賛助会員として御協力を いただいています。(50音順)

(株)埼玉新聞社

アルディージャ後援会 埼玉信用組合 (株)イワコー 埼玉トヨペット(株) 浦和北ロータリークラブ 埼玉ホーチキ(株) (株)エフエムナックファイブ (株)埼玉りそな銀行 化研興業(株) 三州製菓(株)

カネパッケージ(株) (株)篠塚製作所 関東自動車(株) (株)秀飯舎

関東信越税理士会埼玉県支部連合会 (学)城西大学

(株)コア 生活衛生同業組合埼玉県映画協会 (株)サイサン 生活協同組合コープみらい (学)埼玉医科大学 たつみ印刷(株)

埼玉県小売酒販組合連合会 (有)つじ 埼玉縣信用金庫 (株)テレビ埼玉 東洋パーツ(株) 埼玉県信用金庫協会 (公社)埼玉県農林公社 (株)東和銀行 中沢乳業(株)

埼玉県ボウリング場協会 (株)埼玉シミズ (学)日本工業大学 日本生命保険相互会社さいたま支社 (株)日本標準統合物流センター

(株)ハイデイ日高 羽石電氣工業(株)

Humming Bird未来基金

東日本電信電話(株) 埼玉事業部

平田精工ジャパン(株)

(株)広野

富士フイルムビジネスイノベーションジャパン(株)埼玉支社

ベストセレクション(株) 本田技研工業(株)埼玉製作所

増幸産業(株) みはし(株) (株)武蔵野銀行 望月印刷(株) 森乳業(株) (株)八木橋

# 令和3年度「家庭の日」ポスターコンクール入賞作品

(小学生の部 優秀賞)



「夕方の楽しみ」 狭山市立入間川東小学校 4年 米川 六花さん

(小学生の部 優良賞)



「キャンプ場でポップコーンパーティー」 三郷市立新和小学校 3年 菅原 あおいさん

(小学生の部 優良賞)



「家族と楽しいトランプ大会」 飯能市立飯能第一小学校 6年 木﨑 優来さん

(中学生の部 優秀賞)



「大好きな家族との時間」 川越市立川越第一中学校 1年 櫻井 陽斗さん

(中学生の部 優良賞)



(中学生の部 優良賞)



越谷市立千間台中学校 2年「家族」 平井 海さん

上尾市立南中学校「身長伸びたよ」

1年

永田

朱莉さん

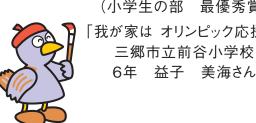
# 令和3年度

# 「家庭の日」ポスターコンクール 最優秀賞・特別賞作品



(小学生の部 最優秀賞)

「我が家は オリンピック応援団」 三郷市立前谷小学校



埼玉県マスコット「コバトン」



3年 加藤 まいこさん上尾市立大谷中学校



埼玉県マスコット「さいたまっち」

(株式会社イワコー 特別賞)



「スイカわり」 さいたま市立大久保東小学校 2年 塩野入 柚希さん

(埼玉県美術教育連盟 特別賞)



「かぞくでじょうききかんしゃにのったよ」 飯能市立精明小学校 1年 鎌田 悠生さん



(テレ玉 特別賞)



「夜空の花火 きれいだな」 三郷市立幸房小学校 3年 吉田 妃香俐さん

埼玉県映画協会 「みんなで楽しく」 特別